

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を掲示している。また、理念を踏まえた行動規範を朝、夕の申し送り時に唱和している。	各ユニットホールに理念を掲示し来訪者にも分かるようになっている。10項目からなる行動規範を申し送り時に唱和し意識を高めている。家族に対しては見学時や利用契約時に取り組み方針について説明している。理念にそぐわない職員がいた場合、所長、リーダーが話し合い個人的に指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に入っていて、地域の回覧に施設の行事や様子を載せたチラシを月1回出しています。お茶のみサロンや草取りに参加しています。 年3回地域の方を対象に勉強会を開いています。	自治会の一員として区費を納めている。回覧板を回していただき参加できる行事については参加している。利用者と共に施設の周りの草取りやゴミ拾いを行っている。公民館で行われるお茶のみサロンには5～6名の利用者が参加しゲームをしたり昼食を頂き楽しんでいる。毎月、歌のボランティアの来訪が有り利用者も楽しみにしている。高校生の職場体験も2名で3日間有り、掃除、レクリエーション等で交流の時を持っている。実習生の受け入れも引き続き行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お茶のみサロンに参加したり、認知症に関する勉強会を開いています。ボランティアさんの呼びかけもしています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開いています。現状報告をして意見を出して頂いています。改善の意見は取り入れています。	奇数月の第4月曜日に家族会会長、区長、民生委員、あんしん(介護)相談員、地域包括支援センター職員、市介護保険課職員、ホーム関係者の出席で開催している。活動状況報告、事故報告、行事報告、意見交換等が行われ運営の向上に役立っている。	
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あんしん相談員さんが月1回来所されています。介護保険の更新手続きや認定調査に立ち会っています。キャラバンメイトの会員になり市の担当の方とも話す機会が増えました。	地域包括支援センターと様々なことについて連携を取合い情報も頂くと共にオレンジカフェ開催について相談している。あんしん相談員の来訪が月1回2時間あり利用者と親しく関わっていただいている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームで行い半数位の家族が立ち会っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リクライニング上で体動が激しくずり落ちてしまう為、家人と相談して食事時の時だけ腰ベルトをしている人がいたが、拘束になるので中止しました。止むおえずする時は、記録に残す様になっています。	現在離設傾向の強い利用者はなく各ユニットの入り口ドアは開錠され、所在確認をきめ細かく行っている。安全確保のため家族と相談しセンサーマット、チャイム使用の利用者が数名いる。法人主催の身体拘束研修会に参加し意識を高めると共に支援の中で状況に応じその都度拘束対応について話し合いを重ね徹底を図り拘束のないケアに取り組んでいる。	

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。言葉使いに対しても命令口調は禁止と職員に常日頃言っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年から1人成年後見人をつけました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約をする時に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見などを聞いたり、意見箱を設置したり、来所された時には近居報告しています。月1回「まゆ新聞」をご家族に送っています。また、ブログも1週間に1度書き換えています。	利用者がストレスが溜まらないように心掛け、自分だったらどうしてほしいかを考え支援に取り組んでいる。家族の来訪は毎週の方から年数回の方まで様々であるが来訪された際には細かく近況報告を行い希望もお聞きしている。家族会も年3回、春の「報告会」、夏の「敬老会、食事会」、冬の「新年会」などを行い、プラス年末には各利用者の居室の大掃除を家族会で実施していただき交流を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があったら、言ってもらい職員会議で検討しています。	全体での職員会議を月1回実施している。事前に所長とリーダーで会議内容を検討し会議に臨み職員の意見を汲み上げるようにしている。職員はユニット固定でなくローテーションでユニット間を行き来しての勤務を行い、全利用者を把握、情報を共有するようにしている。人事考課制度があり年2回所長、リーダーによる個人面談が行われ実績評価に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課をしています。出来ている部分は褒めています。会社内の研修や外部への研修に参加しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けています。職場内でも介護技術向上に努めています。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の施設との交流は図っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で聞くようにしているが、本人は良く分かっていない方がほとんどです。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で聞いたり、入所時にどのような支援を望んでいるのかをお聞きしている。施設での様子を機会があるたびにお話ししている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を聞いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はして頂いています。また、家事のお手伝いをして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会になかなか来られないご家族には、時々連絡をして、様子を伝えたり、頼みごとをしたりして来所される機会を持つようになっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々家に外泊する方や、年末年始、お盆などに家族のもとに行かれる方もいます。また、ご家族が来所された際に、一緒に出掛けられる方もいます。自由にして頂いています。定期的に受診にお連れして下さるご家族も何人かいます。	利用者の高齢化に伴い来訪者は減少しているが友人、知人の来訪がある利用者があり、お茶をお出ししホールや居室で寛いで頂いている。家族に電話をする方も数名おられる。また、年賀状も職員と共に作成し家族や親戚に出している。希望の利用者については馴染みとなった近くのドラッグストアに化粧品、生活雑貨等の買い物に出掛けている。	

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	失語症の方や大きな声を出す方もいらっしゃる、他の利用者様から苦情が出る事がありますが、常にみんなの輪の中で過ごせる様に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方や在宅に戻られた方はいませんが、ケアプラン等で情報提供をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作る時本人にどう過ごしたいかお聞きしている。毎月アセスメント会議を開いて検討しています。本人が言った言葉に耳を傾けたり、態度などを見逃さないようにしています。	意思表示の出来る利用者は半数で他の方は寄り添い、問い掛けの中での表情等で意向を汲み取り希望に沿った支援が行えるように心掛けている。家族からお聞きした生活歴を参考にし、食事、外出等の希望を聞いて対応している。朝10時のお茶の時間にはコーヒー、お茶、紅茶、ココアの4種類を用意し選んでいただくようにしている。遠慮がちな利用者については1対1になる入浴の時間に職員が希望を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族の方に分かる範囲でお聞きしている。ご家族の来所時の会話の中でお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のアセスメント会議で現状の把握に努めています。毎日バイタルを計ったり、排便チェックをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心に各利用者様のケアについて提案してもらい、皆で検討しプランに反映しています。ケアプラン見直しの際は、家人の意見を聞いています。	職員は2～3名の利用者を担当している。一ヶ月毎、支援表に日々の状況と評価を記入しアセスメント会議においてモニタリングを行い、安定している方については6ヶ月～1年での見直し、不安定な方については担当者の意見を聞き3ヶ月～6ヶ月での見直しを行っている。ご家族に対しては来訪時と電話にて希望をお聞きするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録しています。体調の変化やいつもと違う行動などは、申し送り時に送っています。ケアプランに反映しています。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急搬送や入院の時は、付き添っていきます。また入所者様がどうしても家に行きたいと言われた時は一緒について行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での草取りに参加しています。獅子舞や夏祭りに参加しています。理美容院が月1回来て下さっています。歌のボランティアさんも毎月来て下さっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族に主治医をどうするかお聞きしています。協力機関の医師に診て頂いている方は現在15名様です。	15名の利用者はホーム協力医の月2回の往診で対応している。3名の方は以前からのかかりつけ医を利用し家族対応となっている。契約の訪問看護による週1回の来訪があり、健康管理や様々な相談に乗っていただき、24時間のオンコールも可能となっている。歯科は要望により訪問歯科での対応を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時や皮膚トラブル等あった時は、訪問看護師に連絡しています。すぐ対応して下さいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をしたり、面会に行き状態の確認をしています。退院時には病院とカンファレンスをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Drから聞くように言われてから、家族と話し合っています。早い段階で聞いておいてもいざとなると家族の気持ちも変わるのでそうしています。看取りになった時は、訪看・Drと連携を取ります。	開設以来看取り支援を行っており、直近1年以内でも1名の看取りを行った。重度化した際の指針があり利用契約時とその状況に至った時に希望と意向を確認し看取り支援に取り組んでいる。医師や訪問看護師と連携を取りながら支援に取り組み、利用者、職員でお見送りをしている。職員の心構えについても訪問看護師より指導して頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にはしていないが、緊急時の対応マニュアルが分かる所にあります。消防署で開催している応急手当の講習会に全員行きました。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施しています。法人内での協力があります。区長さんをお願いしていますが、地域の協力はありません。	年2回消防署へ連絡の上防災訓練を行っている。避難訓練では階段を使つての避難を行い、車イスも2人で抱えての訓練を行っている。通報、消火訓練も行い、夜間想定では夜勤者2人で何が出来るのかを確認し訓練を行っている。緊急連絡網を使用した訓練をこれから行う予定である。水や非常食の備蓄が備えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応しているつもりですが、時々上から目線の声かけが気になる時があり、その時はその都度注意しています。また会議の席でも言っています。	自分がされて嫌なことは絶対にしないということを基本とし取り組んでいる。特にトイレ介助には気を遣い気分を損ねないように声掛けには気を配っている。挨拶、言葉使いは気持ち良く、優しく対応するよう心掛け、呼び方は基本敵に苗字に「さん」付けて気持ちを含めお呼びし、入室の際にはノックをし確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の選択をして頂いたり、レクへの誘い、入浴への誘いは本人の意思を尊重して無理強いしない様にしています。時々何かしたいことがあるか聞いています。意思表示が出来ない方は、声掛けの反応を見たり、表情を見たりして対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にしています。朝食時に起きれない人は延食したり、レクへの強要はしていません。夜間、一人で寝るのは寂しいと言われる方は、職員がいるフロアで過ごして頂いたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着る服を選択する方はあまりいませんが、家人が用意したもので、毎日同じ服を着ない様にしています。理美容は毎月1回来て頂いてカット、パーマ、カラー等本人の希望の髪形にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきや下膳、食器拭き等手伝って頂いています。食事形態は本人に合わせています。粥、キザミ、ミキサー食の方もいます。季節が分かる(七草粥、恵方巻き等)食事を提供しています。	15名の方が自力で食事が出来、3名が介助が必要な状況である。献立は法人の栄養士が立てたものを基本とし利用者の希望を取り入れホームでアレンジしお出ししている。食材は基本的に配達されるが1日おきに近くのスーパーに利用者同行で買い出しに出掛けている。利用者は力量に合わせて片付中心にお手伝いをしている。家族会、正月、節分、ひな祭り等季節の行事には行事食をホームで作り楽しんでいる。誕生日にはロールケーキにデコレーションをしお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てた物をアレンジして作っています。食事は本人に合った量を提供しています。水分は3食、お茶、おやつ時に必ず2杯飲んで頂く様にしています。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけや介助をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄するようにしています。が2人介助が必要で職員が1人の時は、ベット上でのパット交換でも良いとしています。	自立の方が6名で、他の方は介助が必要となっており、ほとんどの方はリハビリパンツとパット使用という状況である。夜間ポータブルトイレ使用の方が5名ほどいる。24時間シートでパターンを把握し利用者の時間に合わせ声掛けをトイレへお連れしている。優しく声掛けをしているところを拝見しホームのきめ細かく丁寧な取り組み姿勢に好感が持てた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取して頂いたり、野菜が多いメニューになっています。便秘気味な方にはトマトジュースを毎朝飲んで頂いています。牛乳は飲める方には毎朝提供しています。また、排便チェックをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はだいたい決めてありますが、拒否される方もいるので、その時は臨機応変にしています。 長風呂の方は、納得がいくまでゆっくり入って頂いています。入浴剤や柚子湯等しています。	自立の方が1名でほとんどの利用者は何らかの介助が必要である。基本的には週2回の入浴であるが希望により3回入浴される方もいる。十分な広さが確保された浴室は明るく開放感があり、浴槽も2ヶ所設けられゆったりと入浴できる環境が整っている。入浴を拒否される方もいるが、声掛けやタイミングを見て対応している。入浴剤や柚子湯等で温泉気分も楽しんでいる。家族と1泊で温泉に出掛ける方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を進めて、休みたいと言われた方は休んで頂いています。リネン交換は全員週1回しています。日中の活動量をあげて夜の睡眠につながる様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧のファイルを作って、誰もがいつでも見れるようにしてあります。往診時Drと相談しながら症状の変化に対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の能力に合った手伝いや作品作り等を通して、生きがいを持てるようにしています。歌が好きな方が多いので機会を多く持っています。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な外出希望でも出来る限り対応しています。 年に3~4回はバスで出かけています。地域の方の協力は得られていませんが、家族の方で外に連れて行って下さる方もいます。	外出時、車イス使用の利用者が7名いるが天気の良い日にはホームの周りを15分位散歩したり、複合施設の花壇で花を楽しんだりしている。年間の外出計画があり、1月は初詣、4月はお花見、7月は七夕、10月は紅葉狩り、11月はドライブ外出等に出掛け、ファミリーレストランに立ち寄りスイーツ等も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理しています。外出の際の飲食や日用品で本人の希望があれば一緒に買いに行ったり、代理で買って来たりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をしています。年賀状を本人が書ける部分だけ書いて頂き家族宛てに出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの窓には季節が分かるように手作りの物を貼っています。また手作りカレンダーを毎月作っています。空調の関係で風が気になる方に対してはいいかない工夫をしています。	各ユニットのフロアには食事や「大人の学校」に使うテーブル席、ゆっくり寛ぐソファが準備されている。職員紹介が掲示板に顔写真でされており家族にも分かるようになっている。壁、天井には季節の飾りつけが施されホールの片隅には観葉植物も置かれている。また、屋上には野菜作りを楽しむための「畑」も準備され利用者が楽しく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いています。一人でくつろいでいる方もいます。自席付近の方と談笑している方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が考えて、本人が使いやすかったり馴染みの物を持ち込んで頂いたりしています。	各居室入り口には利用者や担当職員の名前がプレートに表示されている。洗面台と大きなクローゼットが設置され暮し易さに配慮がされている。壁には誕生日に職員より送られたお祝い色紙、正月の書初め、家族の写真、御自分の作品等が貼られ、併せて使い慣れた家具やテレビ等が持ち込まれており、ホームでの生活を思い思いに過ごしていることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「お便所」と表示をしたり、居室の入り口には名前を貼ってあります。それでもわからない方には、印をつけてあります。		